

GR マルチパスドライバ (Linux 版) サポート OS・機種、接続条件

---

(2004 年 11 月版)

## 目次

サポート OS	1
各 OS でのインストールについて	1
サポート機種	2
ETERNUS6000 ディスクアレイ	2
ETERNUS3000 ディスクアレイ	2
ETERNUS GR series ディスクアレイ	3
CAID と接続位置	4
ETERNUS6000	4
ETERNUS3000 モデル 50 と ETERNUS GR710 の装置背面	4
ETERNUS3000 モデル 80 とモデル 100 の装置背面	5
ETERNUS3000 モデル 200, 300, 400, 500, 600, 700 の装置背面	5
ETERNUS GR720, GR730 の装置背面	6
ETERNUS GR740, GR820, GR840	6
接続条件	7
GR マルチパスドライバにおける接続条件	7
FC カードにおける接続条件	7
担当 CM 型と非担当 CM 型のディスクアレイ	8
旧版からのアップグレードについて	9
V1.0L00 ~ V1.0L03 から V1.0L04 へのアップグレード	9
パッチ(緊急修正 T00149-01)を適用した V1.0L03 から V1.0L04 へのアップグレード	9
注意事項	10

### 商標登記について

Microsoft(R)は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

WindowsNT(R), Windows(R)2000 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Sun, Sun Microsystems, Sun ロゴ, Solaris およびすべての Solaris に関連する商標及びロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標であり、同社のライセンスを受けて使用しています。

Solaris(TM) Operating Environment および Solaris(TM) オペレーティング環境は、本文書では「Solaris OE」と記述しています。

UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国、ならびに他の国における登録商標です。

なお、本資料に記載されているシステム名、製品名等には、必ずしも商標表示(R)、(TM)を付記していません。その他、一般製品名・社名は、各社の商標または登録商標です。

## サポート OS

GR マルチパスドライバがサポートしている Linux 系の OS は以下の通りです。

なお、サーバ(PRIMERGY)の OS サポート状況はシステム構成図より確認が必要です。

OS 種別	カーネルバージョン
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 3) for Itanium	2.4.21-4.0.1.EL 2.4.21-9.EL 2.4.21-15.EL
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 3) for Itanium	2.4.21-4.0.1.EL 2.4.21-9.EL 2.4.21-15.EL
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 3)	2.4.21-4.0.1.EL 2.4.21-9.EL 2.4.21-15.EL
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 3)	2.4.21-4.0.1.EL 2.4.21-9.EL 2.4.21-15.EL
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 2.1)	2.4.9-e.12 2.4.9-e.25 2.4.9-e.27
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 2.1) (旧称: Red Hat Linux Advanced Server 2.1)	2.4.9-e.8 2.4.9-e.12 2.4.9-e.25 2.4.9-e.27

## 各 OS でのインストールについて

インストール手順の詳細については、製品に添付されているインストールガイドを御覧ください。

## サポート機種

GR マルチパスドライバがサポートしているディスクアレイの機種は以下の通りです。

- ETERNUS6000 ディスクアレイ
- ETERNUS3000 ディスクアレイ
- ETERNUS GR series ディスクアレイ

なお、サーバ(PRIMERGY)のディスクアレイサポート状況はシステム構成図より確認が必要です。

### ETERNUS6000 ディスクアレイ

サポート機種	GR マルチパスドライバ モデル名称	Version Level
ETERNUS6000	for Enterprise Model	V1.0L04 以降

### ETERNUS3000 ディスクアレイ

サポート機種	GR マルチパスドライバ モデル名称	Version Level
ETERNUS3000 モデル 50	for Entry Model	V1.0L04 以降
	for Standard Model	
	for Enterprise Model	
ETERNUS3000 モデル 80	for Entry Model	V1.0L04 以降
	for Standard Model	
	for Enterprise Model	
ETERNUS3000 モデル 100	for Entry Model	V1.0L04 以降
	for Standard Model	
	for Enterprise Model	
ETERNUS3000 モデル 200	for Standard Model	V1.0L04 以降
	for Enterprise Model	
ETERNUS3000 モデル 300	for Standard Model	V1.0L04 以降
	for Enterprise Model	
ETERNUS3000 モデル 400	for Standard Model	V1.0L04 以降
	for Enterprise Model	
ETERNUS3000 モデル 500	for Standard Model	V1.0L04 以降
	for Enterprise Model	
ETERNUS3000 モデル 600	for Standard Model	V1.0L04 以降
	for Enterprise Model	
ETERNUS3000 モデル 700	for Standard Model	V1.0L04 以降
	for Enterprise Model	

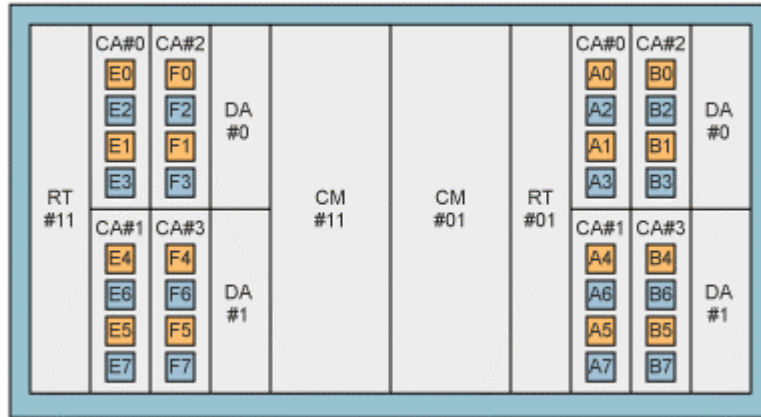
**ETERNUS GR series ディスクアレイ**

サポート機種	GR マルチパスドライバ モデル名称	Version Level
ETERNUS GR710	for Entry Model	V1.0L02 以降
	for Standard Model	V1.0L02 以降
	for Enterprise Model	V1.0L02 以降
ETERNUS GR720	for Standard Model	V1.0L02 以降
	for Enterprise Model	V1.0L02 以降
ETERNUS GR730	for Standard Model	V1.0L02 以降
	for Enterprise Model	V1.0L02 以降
ETERNUS GR740	for Enterprise Model	V1.0L02 以降
ETERNUS GR820	for Enterprise Model	V1.0L02 以降
ETERNUS GR840	for Enterprise Model	V1.0L02 以降

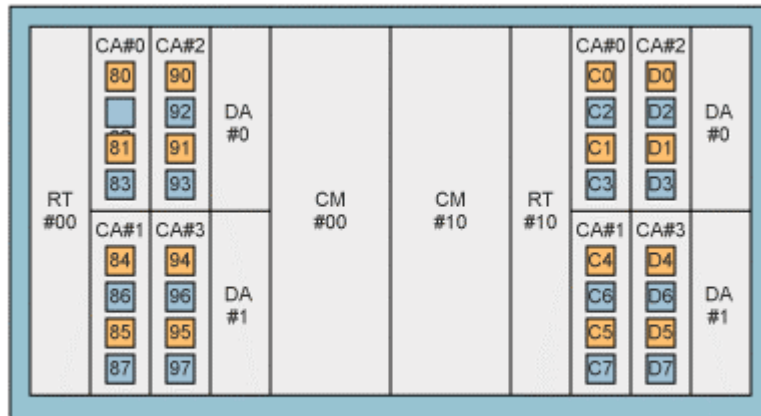
## CAID と接続位置

## ETERNUS6000

〔装置前面〕



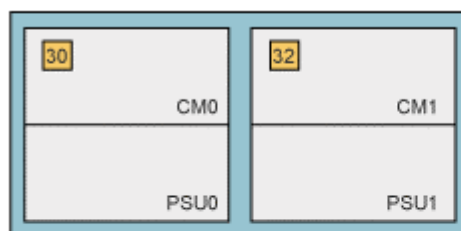
〔装置背面〕



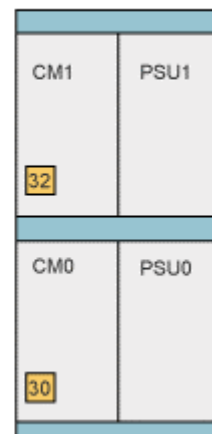
■ 4Port-CAの場合のみ ■ CAID

## ETERNUS3000 モデル 50 と ETERNUS GR710 の装置背面

〔ラックマウント〕



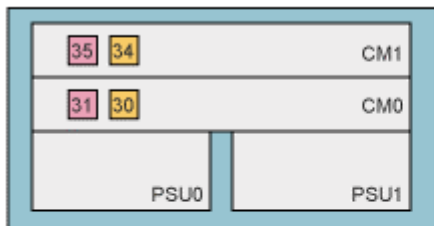
〔ペディスタル〕



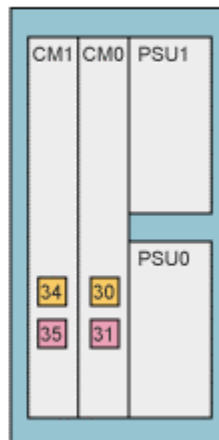
CM: Controller Module, PSU: Power Supply Unit  
■ CAID

**ETERNUS3000 モデル 80 とモデル 100 の装置背面**

(ラックマウント)



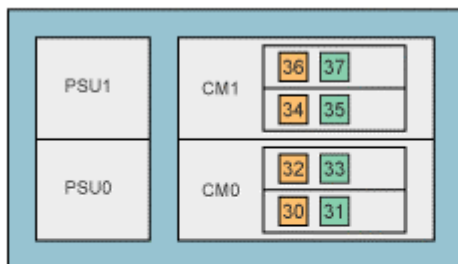
(ベディスタル)



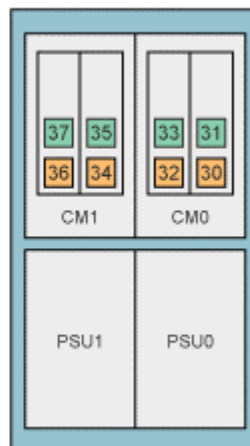
CM: Controller Module, PSU: Power Supply Unit  
 ■ 2 port-CMの場合 ■ CAID

**ETERNUS3000 モデル 200, 300, 400, 500, 600, 700 の装置背面**

(フロアスタンド/ラックマウント)

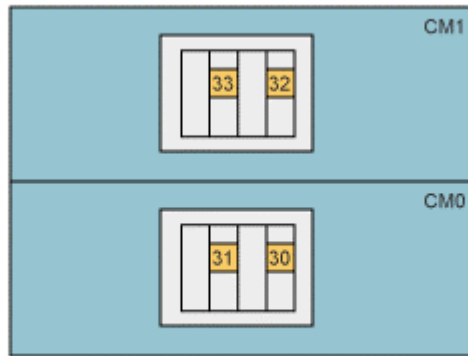


(ベディスタル)



CM: Controller Module, PSU: Power Supply Unit  
 ■ 2 port-CAの場合 ■ CAID

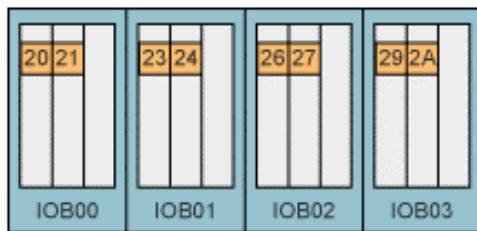
## ETERNUS GR720, GR730 の装置背面



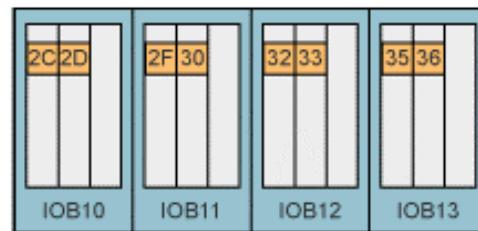
CM: Controller Module  
 CAID

## ETERNUS GR740, GR820, GR840

〔装置前面〕



〔装置背面〕



CM: Controller Module  
 CAID



## 接続条件

GR マルチパスドライバの接続するその他の製品のサポート状況については以下の通りです。

なお、サーバ(PRIMERGY)の FC カード・トポロジのサポート状況はシステム構成図より確認が必要です。

### GR マルチパスドライバにおける接続条件

- FC カード

GR マルチパスドライバの製品 Version Level	FC カード
V1.0L00	PG-FC102
V1.0L01	PG-FC102
V1.0L02	PG-FC102
V1.0L03	PG-FC102, PG-FC105, PG-FC106
V1.0L04	PG-FC102, PG-FC105, PG-FC106, PG-FCD101

- トポロジ

GR マルチパスドライバの製品 Version Level	接続形態
V1.0L00 以降	直結、Switch

- クラスタ

GR マルチパスドライバの製品 Version Level	クラスタ
V1.0L01 以降	PRIMECLUSTER

### FC カードにおける接続条件

FC カード	サポートディスクアレイ	接続条件
PG-FC102	ETERNUS3000	直結、Switch
PG-FC105	ETERNUS6000	
PG-FC106	ETERNUS GR series	
PG-FCD101		

## 担当 CM 型と非担当 CM 型のディスクアレイ

ディスクアレイには、各 LU に対する通常のアクセスパスが一方のコントローラーに固定されているディスクアレイ(以降、担当 CM 型のディスクアレイと表記します)と固定されていないディスクアレイ(以降、非担当 CM 型のディスクアレイと表記します)があります。

担当 CM 型のディスクアレイでは、通常アクセスに使用するコントローラーに接続されたパスが Active 状態となり、一方のコントローラーに接続されたパスは Standby 状態となります。

非担当 CM 型のディスクアレイでは、すべてのパスが Active 状態となり、アクセスに使用されます。

担当 CM 型のディスクアレイと非担当 CM 型のディスクアレイを以下に記載します。

なお、ロードバランス / フェイルオーバーの動作は、担当 CM 型と 非担当 CM 型 や接続パス数により異なります。動作の詳細については、製品添付のマニュアルを御覧ください。

担当 CM 型のディスクアレイ	ETERNUS3000 ETERNUS GR710, GR720, GR730
非担当 CM 型のディスクアレイ	ETERNUS6000 ETERNUS GR740, GR820, GR840

## 旧版からのアップグレードについて

旧版(V1.0L00 ~ 緊急修正 T00149-01 を適用した V1.0L03)から V1.0L04 への移行については以下のように行ってください。

### V1.0L00 ~ V1.0L03 から V1.0L04 へのアップグレード

旧版の GRMPD の RPM をアンインストールします。

アンインストールの方法については旧版の GRMPD のインストールガイドを参照してください。

上記作業後、V1.0L04 を新規にインストールします。

インストール方法は V1.0L04 のインストールガイドを参照してください。

なお、rpm -U によるアップグレードは決して行わないでください。

### パッチ(緊急修正 T00149-01)を適用した V1.0L03 から V1.0L04 へのアップグレード

旧版の GRMPD の RPM をアンインストールします。

アンインストールの方法については旧版の GRMPD のインストールガイドを参照してください。

また root(スーパーユーザ)になって以下のコマンドを実行します。

```
# rm -fr /usr/fjsvgmpd
```

(#はコマンドプロンプト)

上記作業後、V1.0L04 を新規にインストールします。

インストール方法は V1.0L04 のインストールガイドを参照してください。

なお、rpm -U によるアップグレードは決して行わないでください。

## 注意事項

### 1. FC カードドライバのパラメーター設定について

FC カードの種別によって、/etc/modules.conf に下記のパラメーターを設定し、初期 RAM ディスクイメージを再作成する必要があります。

なお、パラメーターは FC カードドライバのバージョンによって異なります。FC カードドライバのバージョンに関しては、FC カードドライバ付属のドキュメントを参照してください。

#### • PG-FC105

以下の 2 行を/etc/modules.conf に追加します。

FC カードドライバのバージョンが V4.20q-1、V1.23a-0 の場合

```
alias scsi_hostadapterN lpfcdd
options lpfcdd lpfc_tgt_queue_depth=xx lpfc_linkdown_tmo=20 (続く)
(続き) lpfc_nODEV_tmo=1 lpfc_topology=yy lpfc_use_removable=0
```

FC カードドライバのバージョンが V2.01g の場合

```
alias scsi_hostadapterN lpfcdd
options lpfcdd lpfc_tgt_queue_depth=xx lpfc_linkdown_tmo=20 (続く)
(続き) lpfc_nODEV_tmo=1 lpfc_topology=yy
```

- $N$  には他の HBA と競合しない数字を指定します。
- `lpfc_tgt_queue_depth=xx` の  $xx$  には以下の計算結果の値を指定します。  
 $[40 \div \text{1つのFC-CA(FCポート)に接続されるファイバチャネルカード数}]$   
 たとえば、1つの FC-CA に 2枚のファイバチャネルカードが接続されている場合  
`lpfc_tgt_queue_depth=20` と指定します。計算の結果、8以下の値になる場合は、8を指定します。  
 なお、ETERNUS3000 モデル 50, ETERNUS GR710, GR720, GR730 では、以下の 計算結果の値を指定します。  
 $[30 \div \text{1つのFC-CA(FCポート)に接続されるファイバチャネルカード数}]$   
 計算の結果、8以下の値になる場合、8を指定します。
- `lpfc_topology=yy` の  $yy$  には以下の値を指定します。
 

ファブリック(switch)接続の場合	2
FC-AL 直結接続の場合	4

複数の FC カードを搭載する場合でも「options lpfcdd ~」で始まる行は複数行記述せず、必ず 1 行のみの記述としてください。

PG-FC105 のインストール方法の詳細については PG-FC105 用ドライバ付属のドキュメントを参照してください。

上記では「options lpfcdd ~」で始まる行が 2 行にまたがっていますが、/etc/modules.conf に追加する場合は改行を入れずに記述してください。

以下に 2 枚の PG-FC105 を FC-AL 直結接続で ETERNUS3000 モデル 100 の CM0 の FC-CA0 と CM1 の FC-CA0 に接続する場合の記述例を示します。

(ドライバのバージョンは V2.01g)

```
alias scsi_hostadapter1 lpfcdd
alias scsi_hostadapter2 lpfcdd
options lpfcdd lpfc_tgt_queue_depth=40 lpfc_linkdown_tmo=20 (続く)
(続き) lpfc_nodev_tmo=1 lpfc_topology=4
```

- **PG-FC106**

PG-FC105 と同様の設定を行ってください。

PG-FC106 のインストール方法の詳細については PG-FC106 用ドライバ付属のドキュメントを参照してください。

## 2. Red Hat Enterprise Linux (v. 3) for Itanium 使用時のブートローダの設定例

以下に Red Hat Enterprise Linux (v. 3) for Itanium 使用時の初期 RAM ディスクの作成例と、ブートローダの設定例を示します。必ずご使用の環境に合わせた設定を行ってください。

なお、インストール方法の詳細は製品付属のインストールガイド、ブートローダの設定についての詳細は elilo のドキュメントを参照してください。

- **2.4.21-9.EL カーネル使用時の初期 RAM ディスク(initrd)作成例**

```
# /usr/fjsvgrmpd/bin/mkinitrd-mpd /boot/efi/efi/redhat/initrd-2.4.21-9.EL-grmpd.img 2.4.21-9.EL
```

- **ブートローダ(elilo)の設定例**

/boot/efi/efi/redhat/elilo.conf ファイルを編集します。

GR マルチパスドライバのインストール時

```
image=vmlinuz-2.4.21-9.EL
label=linux
initrd=initrd-2.4.21-9.EL-grmpd.img      作成した初期 RAM ディスクを指定します
read-only
root=/dev/sda3
```

GR マルチパスドライバのアンインストール時

```
image=vmlinuz-2.4.21-9.EL
label=linux
initrd=initrd-2.4.21-9.EL.img          GR マルチパスドライバ導入前の初期 RAM
read-only                               ディスクを指定します
root=/dev/sda3
```

### 3. ディスクアレイ認識順序固定機能について

パッチ(緊急修正 T00149-01)を適用した V1.0L03、または V1.0L04 以降ではディスクアレイ認識順序固定機能が使用可能となります。

これはディスクアレイが複数台接続されている場合、システム立ち上げ時にディスクアレイを一定の順番でシステムに組み込むための機能です。

この機能により、起動するたびにディスクアレイをシステムに組み込む順番が変更されることを防ぎます。

また、ディスクアレイが電源断や全パス故障などによりサーバから認識できない場合、そのディスクアレイ及び、そのディスクアレイ以降に組み込まれるべきディスクアレイをシステムに組み込みません。これにより、システムへ組み込まなかったディスクアレイの LU が見えなくなります( )。これはシステムに組み込まれるディスクアレイの順序が変わってしまうことによってデータ破壊が発生するのを防ぐためです。この現象が発生した場合は、ディスクアレイとサーバとの接続やディスクアレイの状態を確認し、障害箇所を復旧後、システムを再起動してください。

見えなくなった LU 上に重要なデータがあった場合、システムが起動しなかったり、アプリケーションの起動に失敗したりすることがあります。

### 4. ディスクアレイの増設、減設、交換時の注意

パッチ(緊急修正 T00149-01)を適用した V1.0L03、または V1.0L04 以降をご使用で、以下に該当する作業を行った場合は、インストールの過程で作成した認識順序可変 `initrd`( )でシステムを起動し、再度、認識順序固定 `initrd` の作成手順を実施する必要があります。

なお、認識順序固定 `initrd` の作成手順の詳細は各版のインストールガイド、またはパッチ適用手順書を参照してください。

- ・ システムへ接続するディスクアレイの増設
- ・ システムへ接続していたディスクアレイの減設
- ・ システムへ接続していたディスクアレイの交換

認識順序可変 `initrd` が存在しない場合は、以下の手順により認識順序可変 `initrd` を作成します。

1. `root`(スーパーユーザ)になって以下のコマンドを実行します。

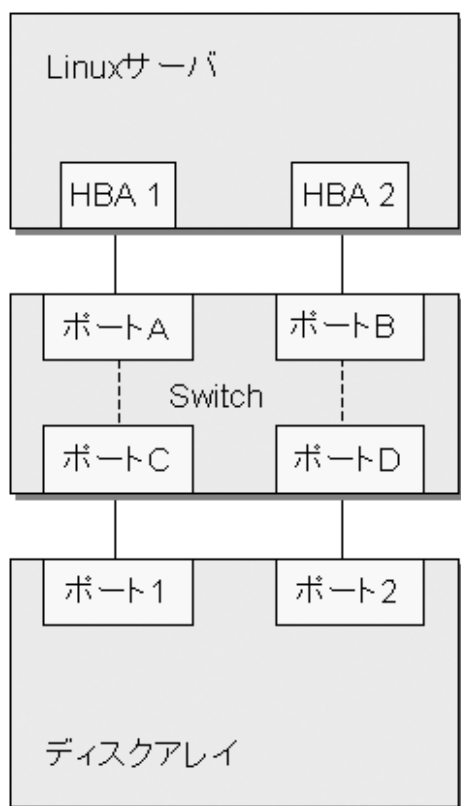
```
# rm -fr /etc/fjsvgrmpd/order
```

2. 認識順序可変 `initrd` を作成します。

```
# /usr/fjsvgrmpd/bin/mkinitrd-mpd 認識順序可変 initrd ファイル名 カーネルバージョン  
mkinitrd-mpd の詳細については各版のインストールガイドを参照してください。
```

## 5. パス構成

Linux 版 GRMPD ではサーバ-Switch 間と Switch-ディスクアレイ間のパスの対応を 1 対 1 にする必要があります。



Linux サーバ、ディスクアレイ間の経路は

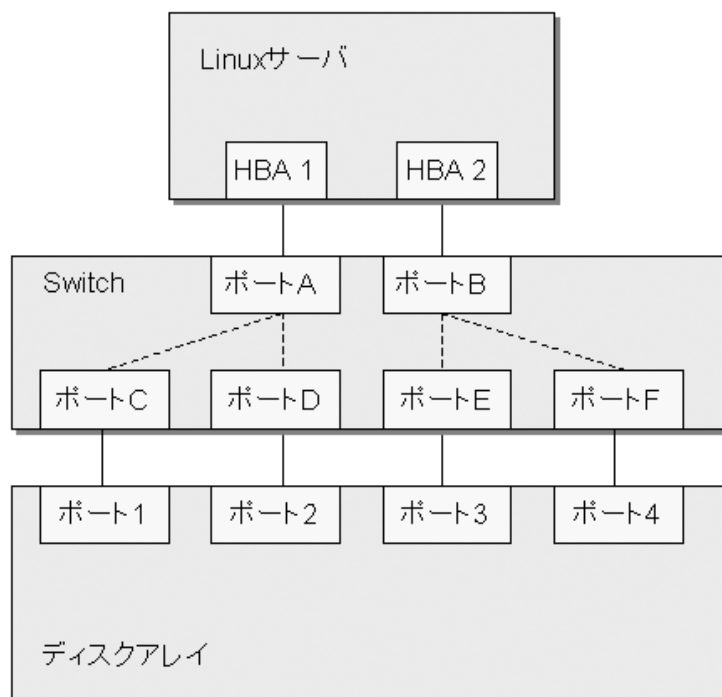
- ・HBA1-ポートA-ポートC-ポート1
- ・HBA2-ポートB-ポートD-ポート2

です。

HBA の数が 2 つ、ディスクアレイへの到達経路も 2 つであり、HBA 数と到達経路数が一致しているため、マルチパスを正常に構築できます。

点線はゾーニングによりポート A とポート C、ポート B とポート D が対応付けられていることを示します。

以下のようにサーバ-Switch 間と Switch-ディスクアレイ間のパス数が異なる構成ではマルチパスを正常に構築できません。



Linux サーバ、ディスクアレイ間の経路は

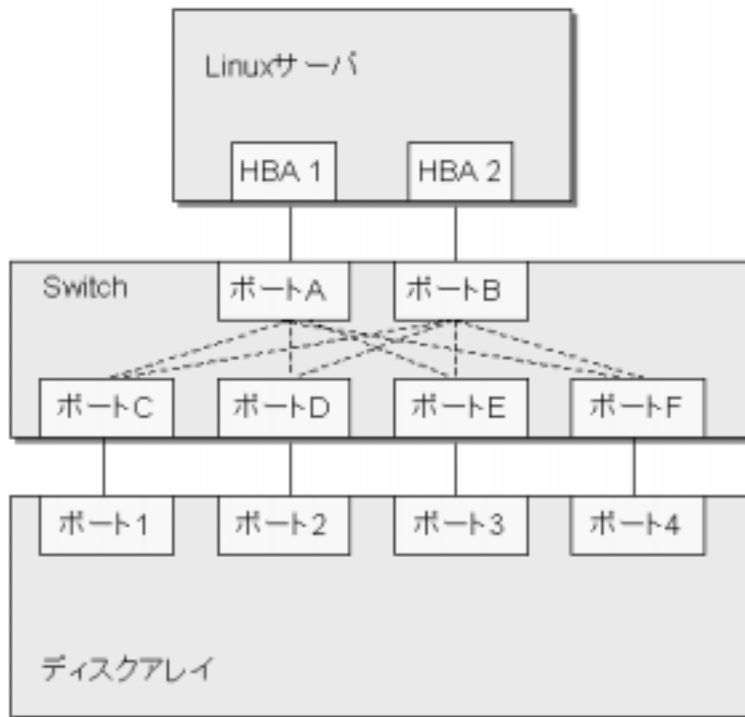
- ・HBA1-ポートA-ポートC-ポート1
- ・HBA1-ポートA-ポートD-ポート2
- ・HBA2-ポートB-ポートE-ポート3
- ・HBA2-ポートB-ポートF-ポート4

です。

HBA の数が 2 つにもかかわらず、ディスクアレイへの到達経路が 4 つあり、HBA 数と到達経路数が一致していないためマルチパスを正常に構築できません。

点線はゾーニングによりポート A とポート C、ポート A とポート D、ポート B とポート E、ポート B とポート F が対応付けられていることを示します。

Switch のゾーニングを行っていない場合、以下のようにサーバ-Switch 間と Switch-ディスクアレイ間のパス数が異なってしまつたためマルチパスを正常に構築できません。



スイッチのゾーニングを行っていないため、Linux サーバ、ディスクアレイ間の経路は

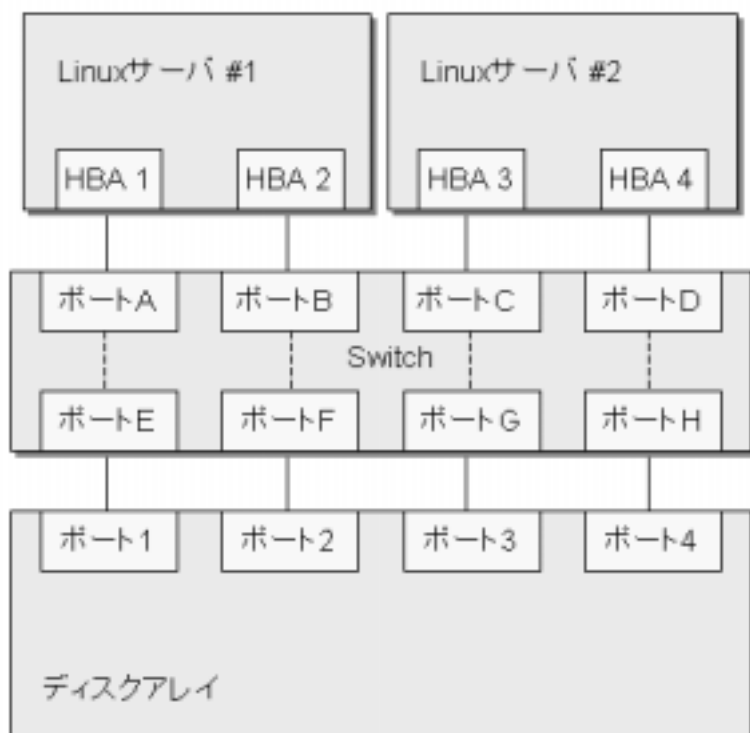
- ・HBA1-ポートA-ポートC-ポート1
- ・HBA1-ポートA-ポートD-ポート2
- ・HBA1-ポートA-ポートE-ポート3
- ・HBA1-ポートA-ポートF-ポート4
- ・HBA2-ポートB-ポートC-ポート1
- ・HBA2-ポートB-ポートD-ポート2
- ・HBA2-ポートB-ポートE-ポート3
- ・HBA2-ポートB-ポートF-ポート4

となります。

HBA の数が 2 つにもかかわらず、ディスクアレイへの到達経路が 8 つあり、HBA 数と到達経路数が一致していないのでマルチパスを正常に構築できません。



## Linux サーバが 2 台でディスクアレイが 1 台あるパターンで正常にマルチパスを構築できる構成の例



Linux サーバ、ディスクアレイ間の経路は  
Linux サーバ#1

- ・HBA1-ポート A-ポート E-ポート 1
- ・HBA2-ポート B-ポート F-ポート 2

Linux サーバ#2

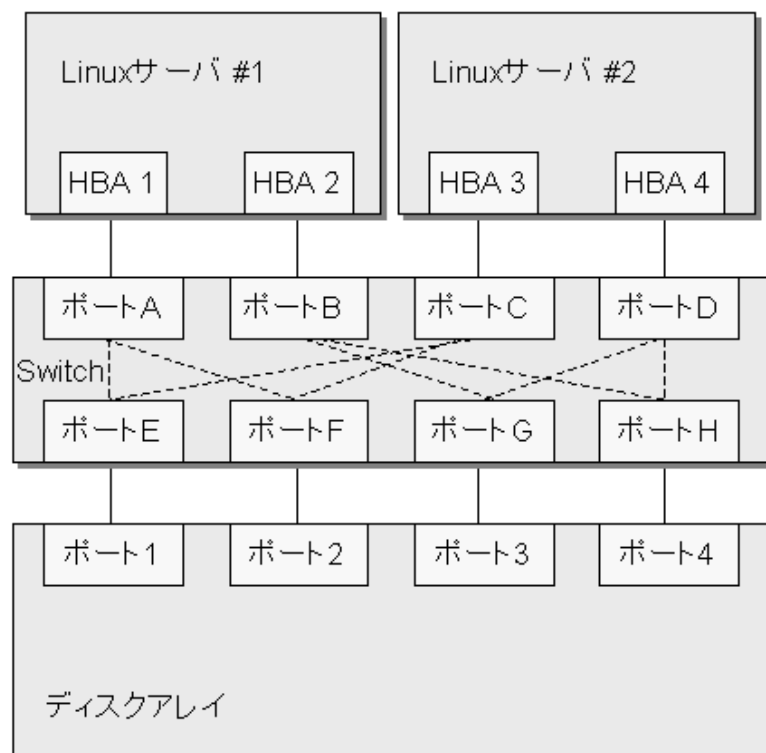
- ・HBA3-ポート C-ポート G-ポート 3
- ・HBA4-ポート D-ポート H-ポート 4

です。

各サーバ毎に見ると、HBA の数が 2 つ、ディスクアレイへの到達経路も 2 つであり、HBA 数と到達経路数が一致しているため、マルチパスを正常に構築できます。

点線はゾーニングによりポート A とポート E、ポート B とポート F、ポート C とポート G、ポート D とポート H が対応付けられていることを示します。

## Linux サーバが 2 台でディスクアレイが 1 台あるパターンでマルチパスを正常に構築できない構成の例



Linux サーバ、ディスクアレイ間の経路は  
Linux サーバ#1

- ・HBA1-ポート A-ポート E-ポート 1
- ・HBA1-ポート A-ポート F-ポート 2
- ・HBA2-ポート B-ポート G-ポート 3
- ・HBA2-ポート B-ポート H-ポート 4

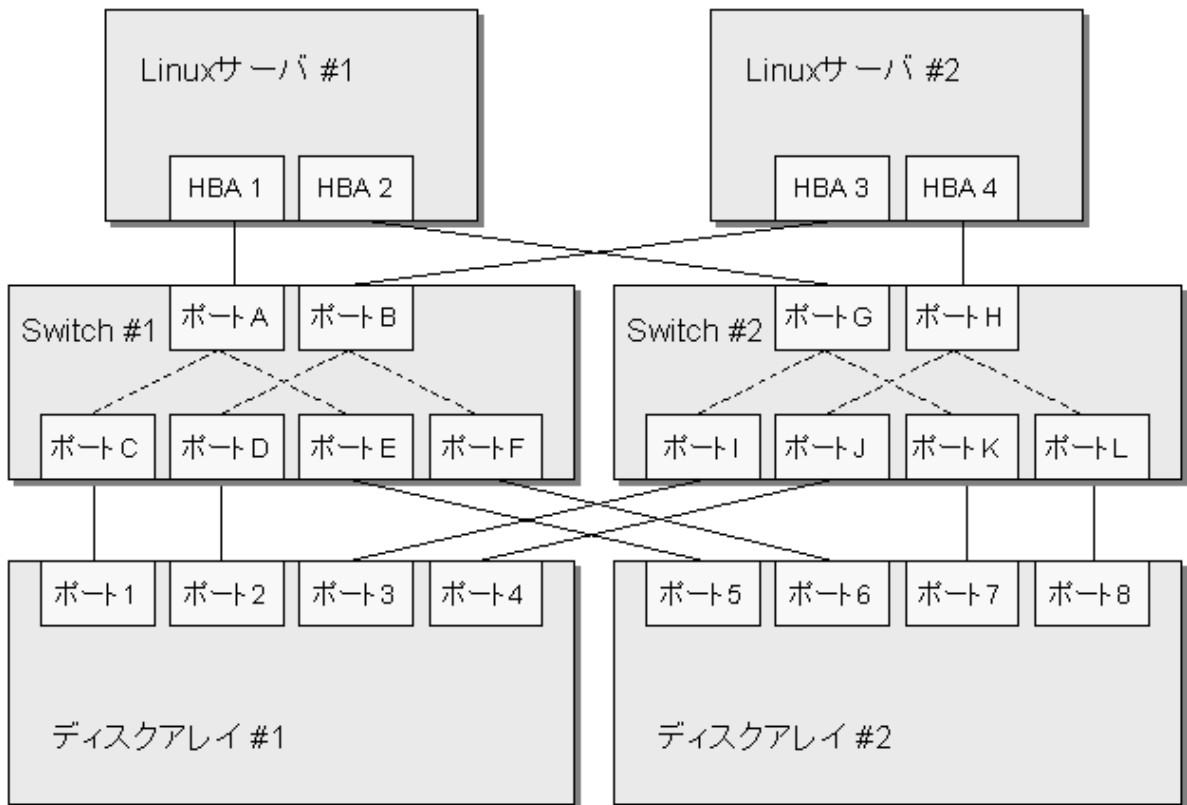
Linux サーバ#2

- ・HBA3-ポート C-ポート E-ポート 1
- ・HBA3-ポート C-ポート F-ポート 2
- ・HBA4-ポート D-ポート G-ポート 3
- ・HBA4-ポート D-ポート H-ポート 4

です。各サーバ毎に見ると、HBA の数が 2 つにもかかわらず、ディスクアレイへの到達経路が 4 つあり、HBA 数と到達経路数が一致していないためマルチパスを正常に構築できません。

点線はゾーニングによりポート A とポート E、ポート A とポート F、ポート B とポート G、ポート B とポート H、ポート C とポート E、ポート C とポート F、ポート D とポート G、ポート D とポート H が対応付けられていることを示します。

## Linux サーバが 2 台でディスクアレイが 2 台あるパターンでマルチパスを正常に構築できる構成の例



Linux サーバ、ディスクアレイ間の経路は

Linux サーバ#1、ディスクアレイ#1 間

- ・HBA1-ポート A-ポート C-ポート 1
- ・HBA2-ポート G-ポート I-ポート 3

Linux サーバ#1、ディスクアレイ#2 間

- ・HBA1-ポート A-ポート E-ポート 5
- ・HBA2-ポート G-ポート K-ポート 7

Linux サーバ#2、ディスクアレイ#1 間

- ・HBA3-ポート B-ポート D-ポート 2
- ・HBA4-ポート H-ポート J-ポート 4

Linux サーバ#2、ディスクアレイ#2 間

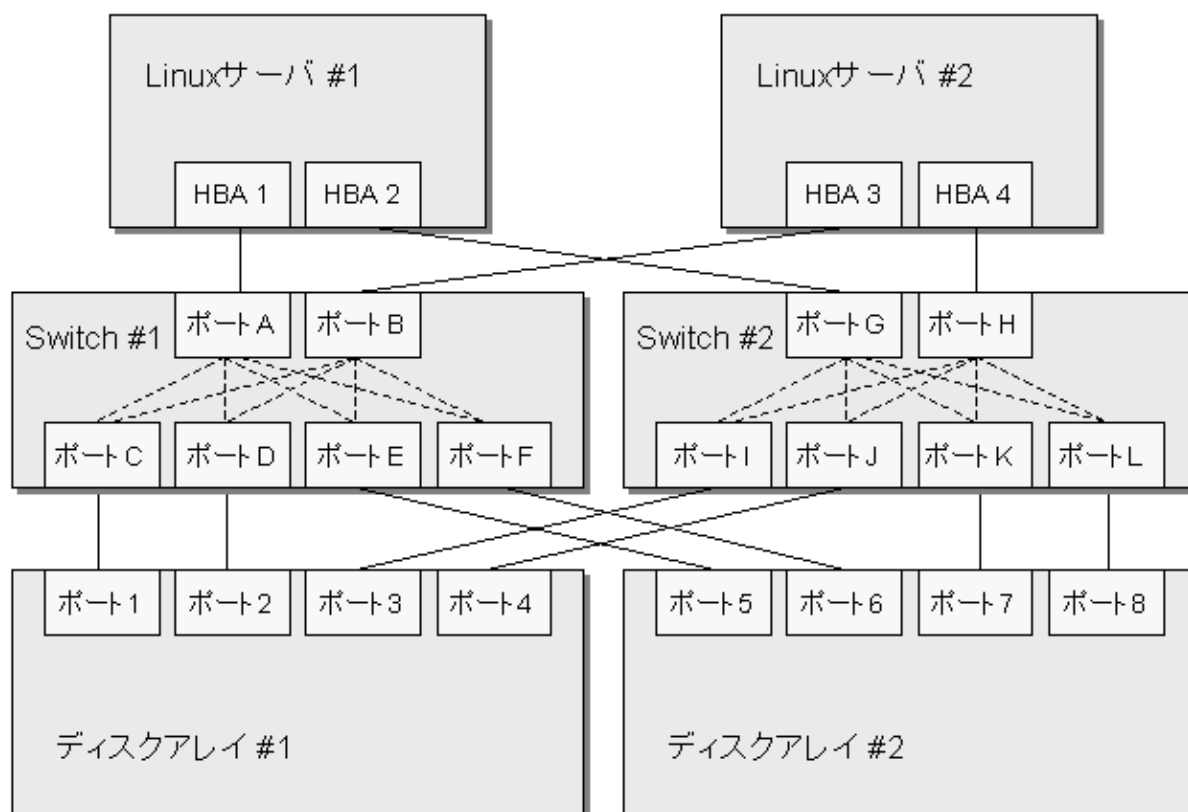
- ・HBA3-ポート B-ポート F-ポート 6
- ・HBA4-ポート H-ポート L-ポート 8

です。

各サーバ、ディスクアレイの組み合わせ毎に見ると、HBA の数が 2 つ、ディスクアレイへの到達経路も 2 つであり、HBA 数と到達経路数が一致しているので、マルチパスを正常に構築できます。

点線はゾーニングにより、ポート A とポート C、ポート A とポート E、ポート B とポート D、ポート B とポート F、ポート G とポート I、ポート G とポート K、ポート H とポート J、ポート H とポート L が対応付けられていることを示します。

## Linux サーバが 2 台でディスクアレイが 2 台あるパターンでマルチパスを正常に構築できない構成の例



## Linux サーバ、ディスクアレイ間の経路は

## Linux サーバ#1、ディスクアレイ#1 間

- ・HBA1-ポート A-ポート C-ポート 1
- ・HBA1-ポート A-ポート D-ポート 2
- ・HBA2-ポート G-ポート I-ポート 3
- ・HBA2-ポート G-ポート J-ポート 4

## Linux サーバ#2、ディスクアレイ#1 間

- ・HBA3-ポート B-ポート C-ポート 1
- ・HBA3-ポート B-ポート D-ポート 2
- ・HBA4-ポート H-ポート I-ポート 3
- ・HBA4-ポート H-ポート J-ポート 4

## Linux サーバ#1、ディスクアレイ#2 間

- ・HBA1-ポート A-ポート E-ポート 5
- ・HBA1-ポート A-ポート F-ポート 6
- ・HBA2-ポート G-ポート K-ポート 7
- ・HBA2-ポート G-ポート L-ポート 8

## Linux サーバ#2、ディスクアレイ#2 間

- ・HBA3-ポート B-ポート E-ポート 5
- ・HBA3-ポート B-ポート F-ポート 6
- ・HBA4-ポート H-ポート K-ポート 7
- ・HBA4-ポート H-ポート L-ポート 8

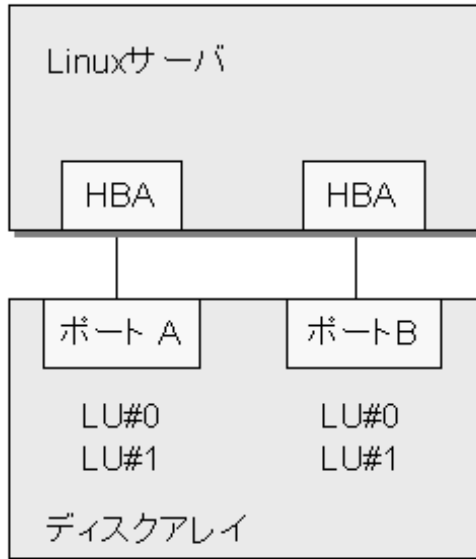
です。

各サーバ、ディスクアレイの組み合わせ毎に見ると、HBA の数が 2 つにもかかわらず、ディスクアレイへの到達経路が 4 つあり、HBA 数と到達経路数が一致していないのでマルチパスを正常に構築できません。

点線はゾーニングにより、ポート A とポート C、ポート A とポート D、ポート A とポート E、ポート A とポート F、ポート B とポート C、ポート B とポート D、ポート B とポート E、ポート B とポート F、ポート G とポート I、ポート G とポート J、ポート G とポート K、ポート G とポート L、ポート H とポート I、ポート H とポート J、ポート H とポート K、ポート H とポート L が対応付けられていることを示します。

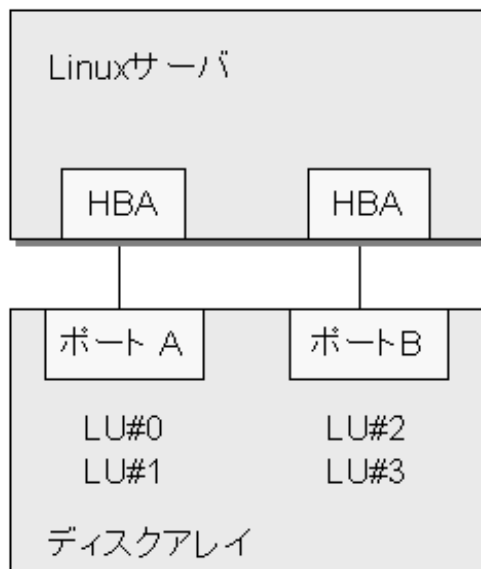
## 6. LU 構成

サーバとディスクアレイが複数パスで接続されている場合、ディスクアレイの各ポートからサーバに見せる LU の構成は同じにする必要があります。



ポート A、ポート B ともに LU#0、LU#1 をマッピングしている LU 構成。

以下のように一方のポートからは LU#0、LU#1 が見え、もう一方のポートからは LU#2、LU#3 が見える構成では正常にマルチパスを構築できません。



ポート A には LU#0、LU#1 をマッピングし、ポート B には LU#3、LU#4 をマッピングしている LU 構成ではマルチパスを正常に構築できません。

#### **サポート OS・機種、接続条件について**

本書は、技術情報として提供するものであり、本書に記載されている内容は改善のため、予告なく変更することがあります。

記載内容に誤りがあれば、富士通株式会社までお知らせください。

富士通株式会社は、本書の内容に関して、いかなる保証もいたしません。また、本書の内容に関連した、いかなる損害についてもその責任は負いません。

---

## **富士通株式会社**

プラットフォームソリューションセンター

プロダクトマーケティング統括部 エンタープライズサーバ部

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

E-mail : [storage-system@fujitsu.com](mailto:storage-system@fujitsu.com)

URL : <http://storage-system.fujitsu.com/jp/>